

9月1日は「防災の日」

～津波災害への備えと情報収集～

詳細 危機管理室 ☎(32)6280



9月1日は防災の日。1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災が由来です。
 近年は、東日本大震災や北海道胆振東部地震が発生するなど、大規模地震が多発しています。
 昨年には、国の「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル」に基づいて
 北海道から津波浸水想定が公表されました。
 これに伴い、市では津波ハザードマップを改訂しており、
 新たな津波浸水想定については、
 市ホームページやWEB版の苫小牧市防災マップで公表しています。
 自宅周辺の浸水エリアや近くの避難所をハザードマップで確認するなど、
 防災の日をきっかけに身の回りのチェックを
 してみてもいかがでしょうか。

市HPやまこまい暮らしのガイド(10月配布予定)で確認!

市HPIはこちら

苫小牧市防災マップはこちら

弱い地震でも要注意! 揺れが小さくても「津波は来る」!!

強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、または弱い地震であっても長時間ゆっくりとした揺れを感じたときは直ちに海岸から離れ、「より遠く」、「より高い場所」へ避難しましょう。

津波は繰り返し来る!

津波は繰り返し襲ってくることもあり、必ずしも津波の第1波が最大とは限りません。津波警報・注意報が解除されるまでは警戒してください。

津波のスピードは速い!

津波の速度は海岸付近でも時速36km(秒速10m)程度もあるので、津波を見てから避難を始めたのでは間に合いません。早めの避難を心掛けましょう。

海岸から離れる!

地震を感じなくても津波警報・注意報が発表されたときは、直ちに海岸から離れ、安全な場所に避難しましょう。

チリ地震津波(1960年)では、津波が約1日かけて日本の沿岸に到達しました。

「より遠く」、「より高い場所」へ!

海岸の地形などによって予想された高さを超える津波が発生する場合があります。すでに浸水が始まっている場合は、可能な限り「より遠く」、「より高い場所」へ避難しましょう。

避難に車は使わない!

東日本大震災では車で避難して助かった人もいますが、道路の渋滞により、車ごと津波の犠牲になった人もたくさんいました。避難は徒歩が原則です。

特別な事情があるとき以外は、歩いて避難しよう!

日頃の備えが重要!

津波から身を守るためには、日頃からの備えが重要です。津波ハザードマップを見ながら、自宅・勤務地・学校における危険度を把握しておきましょう。